



台湾の学友、栄誉ある賞に輝く



【日経アジア賞】台湾海洋大学終身教授の廖一久さん（1965-68／田原RC）が、第24回日経アジア賞（科学技術部門）を受賞しました。同賞は、日本経済新聞社が新聞創刊120周年を記念して1996年に創設したもので、経済、科学技術、文化・社会の3部門でアジアの発展と繁栄に貢献した人々を



たたえる目的で、各部門1人または1団体を毎年表彰。今回で24回目となります。

「エビ養殖の父」として知られる廖さんは、平成26年度外国人叙勲において旭日中綬章を受章。最近のニュースとして、台湾の「廖一久院士之友會」（廖一久院士の友の会）では、博物館を設立、その建設費を募集中とのことです。今回の表彰式は、来る5月29日に東京の帝国ホテルにて行われます。

栄えある受賞、おめでとうございます！

廖一久さんからのメッセージ

今回、第24回日経アジア賞・科学技術部門に選ばれたことは、私が貴国に留学し、学んだ科学技術を母国台湾の水産養殖産業に貢献したこと、およびアジア各国に息長く大きな貢献を続けている点が強調されたことだと思います。留学中、米山奨学生に選ばれたことが大きな契機だと思います。2018年、ロータリー米山記念奨学会財団設立50周年記念式典にて、19,808人（当時）の米山学友代表としてご挨拶させていただいたことも大事なことだと思います。私の成長段階において多くの恩師のご鞭撻、友人達および米山の皆様の励ましを忘れることは出来ません。そして今日まで私を育て、暖かく見守ってくれた両親、家族、親戚に、心から感謝いたします。



【経済省国家産業革新賞（台湾）】

台湾・経済省による第6回国家産業革新賞（原文：國家産業創新獎）の授賞式が4月10日に行われ、国立政治大学商学研究科の教授を務める米山学友、呉安妮さん（東京三鷹RC）が女性賞を受賞、陳建仁副総統からトロフィーが授与されました。

同賞は台湾産業界のオスカーとして知られ、産業界に甚大な貢献をした者に贈られる最高の栄誉です。呉さんは33年にわたって新管理会計システム「AVM(Activity Value Management)」の

理論研究と実践検証を重ね、台湾における新管理会計制度を開発。このAVMを導入し、呉さんがコンサルティングをした企業では収益が大幅にアップしているとのことです。呉さんは、台湾米山学友会の推薦で来日し（海外学友会推薦奨学金：SY-A奨学金）、2003年7月から翌年2月末まで一橋大学で研究活動を行う期間、米山奨学生となりました。「台湾に経済的奇跡を起こしたい。AVMでより多くの台湾企業を助け、人材を育て、国に貢献したい」と、呉さんは語っています。

寄付金速報 — 残り2カ月、さらなる支援を —

4月までの寄付金は前年同期と比べて2.1%減（普通寄付金：0.5%減、特別寄付金：2.9%減）約2,650万円の減少となりました。

10連休という長いGWを控えた影響もあつてか、前月よりも減少幅が広がり、また、直近5年間の同期累計平均額と比較しても、今月の累計額は約230万円下回る結果となりました。

今年度も残すところ2カ月。ロータリアンの皆様の変わらぬご支援に、厚く御礼申し上げます。なお、今年度（半期ごとの納入クラブは後期分）の普通寄付金をまだ送金していないクラブがありましたら、お早目にお送り下さいますようお願い申し上げます。

米山学友が絵画大賞を受賞 — 上野の森美術館大賞展 —

米山学友の張媛媛さん（2018-19／東京江北RC）が「第37回 上野の森美術館大賞展」で絵画大賞を受賞しました。

同展は、素材の違いや抽象・具象といった既成の尺度にとらわれず、個性豊かな作家を顕彰する全国公募の展覧会で、今回は入選作品142点（応募は843点）の中から、張さんの作品《トト曼荼羅》（エンカウスティーク・岩絵具）が最高賞の絵画大賞に選ばれました。

この作品は、古代ローマに紀元を持つエンカウスティーク（焼き付けた蜜蝋）技法と中国古来の遠近法を用い

つつ現代の要素を取り入れたもので、審査にあたった委員からは「描かれた魚のこの呑気で楽しげな表情は他にはないもの」「画肌は日本画の古画のような風合いで、僅かな色彩の岩絵具



のみで極力薄く描き切っているところに魅力がある」等、高い評価を受けました。

張さんはこの3月に東京藝術大学大学院を卒業。「米山奨学生としてロータリアンの方々と接し、頑張る力と沢山のエネルギーをいただいた。米山奨学金がなければ、この作品は完成しえなかったと思っています」と、真剣なまなざしで感謝を述べました。

上野での展示は5月8日で終了しましたが、巡回展として京都文化博物館で6月18日

（火）～23日（日）まで展示されます。今回の大賞受賞により、2021年に個展を開催することも決定したそうです。今後の活躍が期待される若い作家に、今後も声援をよろしくお願い致します。

授賞式（中央が張さん）にて、東京江北RC会長・カウンセラーご夫妻、東京学友会梁理事長、横浜国大教授と。

授賞式（中央が張さん）にて、東京江北RC会長・カウンセラーご夫妻、東京学友会梁理事長、横浜国大教授と。

博士号取得状況 — ご報告お待ちしております —

2018 学年度（2018年4月～2019年3月）に博士号を取得した奨学生・学友は35人、これまでの累計では3,711人となりました（5月10日現在）。

米山記念奨学会では、博士号を取得した奨学生・学友に、お祝いの腕時計をお贈りしています（奨学期間終了後の取得でもOK!）。名前入りの、世界にただ一つの腕時計となっており、大変好評です。博士号を取得した奨学生・学友の皆さんは、米山事務局に報告してください。

- お届け先は、原則として世話クラブです
- 完成まで約2週間かかります

申請方法

「学位記の写真」が「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へFAXまたはメールでお送りください。

（FAX：03-3578-8281／Eメール：scholars@rotary-yoneyama.or.jp）



ぜひ世話クラブの例会で贈呈を！

文字盤の裏に
お名前が入ります

